

# 亜熱帯地域のスッポン養殖技術研究

昭和49年度指定調査研究総合助成事業

研究種別	研究機関	研究種別	研究機関
6.79	01541	62.81	

沖縄県水産試験場八重山支場

島袋新功 照屋忠敬 嘉数 清

## 1、産卵ふ化について

### (1) 産卵数及びふ化数について

#### イ、方法

八重山における親スッポンの年間の産卵数及び産卵回数を知るために、A池（平均体重1.2 Kg）とB池（平均体重1.1 Kg）の2面で飼育し、週に1回採卵を行なって、産卵数、受精卵数及び産卵回数を知らべた。

池はいずれも30 m<sup>2</sup>のコンクリート作りで、底面の半分に約20 cm厚さの砂を敷き、スッポンが潜れるようにした。水深は60 cmに保ち止水養成を行なった。餌料はウナギ配合飼料とチョッパーにかけた冷凍雑魚を1:2の割合で混合して水で練り、1日1回午後4時に体重のほぼ10%（湿重量）を投餌した。

一方、地元のIスッポン養殖場における産卵及びふ化状況も併行して調査した。

#### ロ、結果及び考察

スッポンの産卵状況を各月別にまとめ、Iスッポン養殖場の結果を表1、図1に示し、A、B池の結果を表2、図2に示した。

Iスッポン養殖場における産卵状況は、図1に示されるように、2月よりわずかながら産卵し、漸次産卵数を増し7月にピークを示した。以後減少し11月に終る。産卵盛期は5～9月で、この期間の産卵数は年間の約80%を占める。この養殖場では、採卵後ふ化場に移してふ化管理を行なっている。2、3月の卵はふ化日数が長いので6月よりふ化し始め、しだいにふ化日数は短くなり、産卵数の上昇とともにふ化数も増加し8月にピークに達する。以後産卵数の低下とともに漸減し、翌年1月にふ化は終る。表1に示されるように、この養殖場の年間の産卵数は、21,266個、1回当たり平均産卵数は19.25個、ふ化稚亀数は14,345頭、ふ化率67.5%であった。

A、B池の産卵数は、図2に見られるように、A池において6月にピークを示し7、8月にはむしろ6月及び9月より減少した。B池においては、Iスッポン養殖

表1、Iスッポン養殖場における産卵及びふ化状況

平均体重	親数	全産卵数	1回当り産卵数	ふ化数	ふ化率
—	—	21266	19.25	14345	67.5

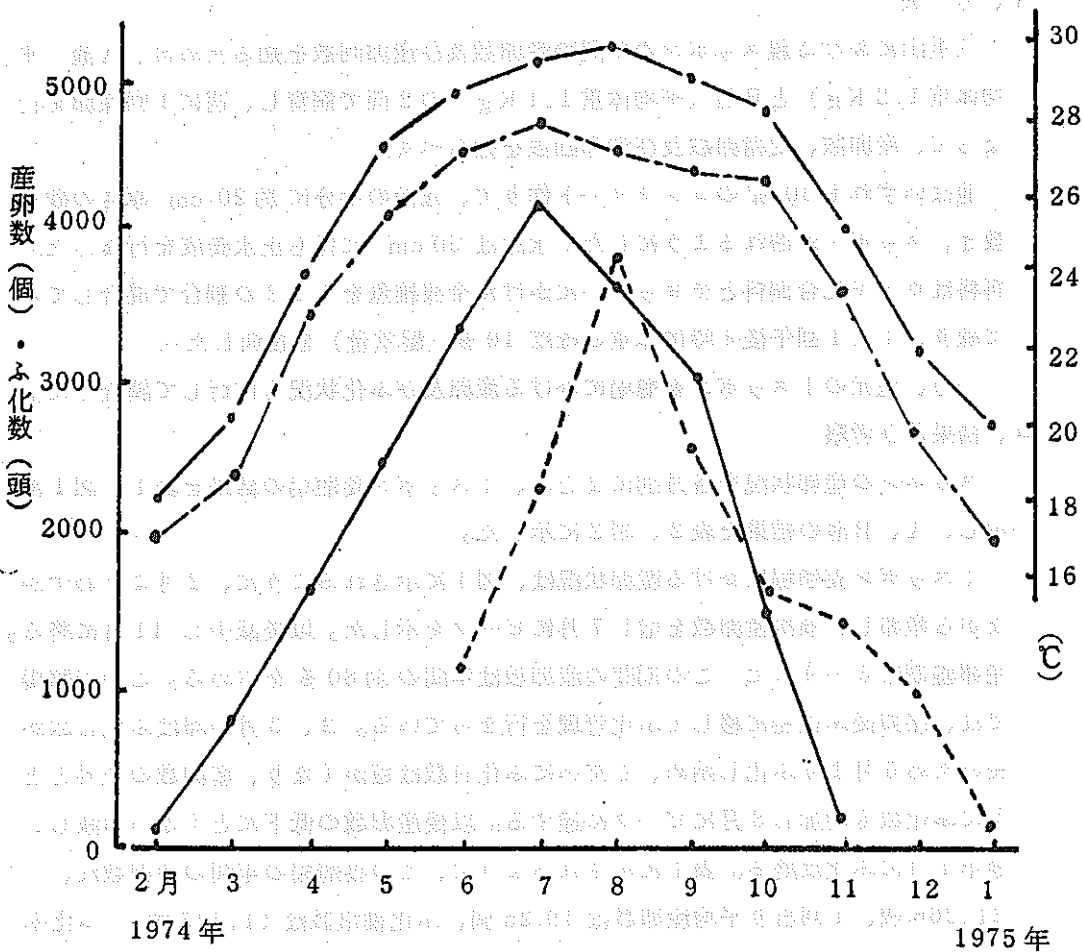


図1 Iスッポン養殖場における産卵及びふ化状況

●—● 産卵数    - - - ● ふ化数    ●—● 気温    ●—● 水温

産卵数、受精率、平均体重、全産卵数、全産卵回数、1回当り産卵数、年間受精率

表2、A、B池の産卵状況

池	親数	平均体重	全産卵数	全産卵回数	1回当り産卵数	年間受精率
A	♀ 31 ♂ 3	1.2 Kg	1831	124	14.8 (4~29)	72.9
B	18 2	1.1	1192	80	14.9 (4~22)	74.1

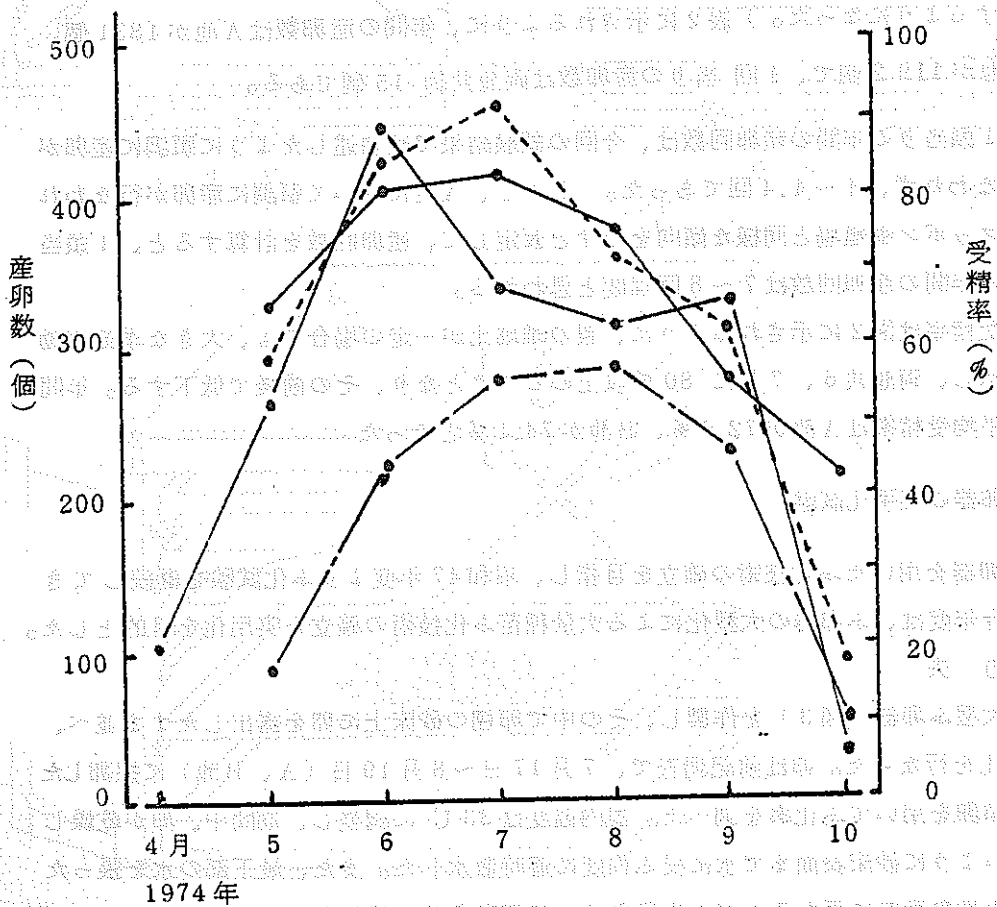


図2 A、B池の産卵数と受精率

●——● A池の産卵数    ●——● B池の産卵数    ●——● A池の受精率  
 ●——● B池の受精率